

声明

被団協がノーベル平和賞を受賞。 被爆者とともに喜び、核兵器廃絶にむけて邁進することを表明する

10月11日、今年のノーベル平和賞に日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の受賞が決まったと報じられた。この報に私たちは被爆者とともに率直に喜び、被爆者の長年にわたる努力と歩みに心からの敬意を表すものである。

ノーベル平和賞受賞は、広島・長崎の被爆者の壮絶な体験から生じた苦しみから「被爆者は私たちが最後に」と、核兵器の非人道性を訴え、「核兵器と人類は共存できない」と人類の未来に警告を発し続けてきたことに対する高い評価であり、同時に核兵器使用さえ危惧される現在の危険な世界情勢に対する警告でもある。また、私たちのような核兵器廃絶、非核の政府の実現を願って運動を進めてきた団体・個人に対する激励でもある。さらに、唯一の戦争被爆国・日本の政府が「核抑止論」を信奉し、核兵器禁止条約を批准せず、締約国会議にオブザーバーとしても参加しないことに対する厳しい批判でもある。

いま、私たちは10月27日投票の総選挙の最中にある。この選挙で、「核共有」論者の石破茂新首相は、自民党ぐるみの「裏金・統一教会問題への真相解明」にフタをし、「非核三原則の形骸化」「軍事大国づくり」の道をひた走ろうとしている。私たちは核兵器禁止条約の批准に賛成し、核兵器廃絶に向けて積極的に取り組む候補者・政党を国会に送り込み、核なき世界のリーダーとなる「非核の日本政府」実現に力を尽くすことを表明する。

2024年10月13日

非核の政府を求める京都の会
共同代表 市川章人・中島晃・花垣ルミ・福島功